

ページ 2

Basic Information / 基本情報

Duration / 開催期間

説明：～年～月 から ～年～月まで

SEPTEMBER2015-MAY2016

Staff / スタッフ

説明：青年会議所メンバーの参加人数

例：何人 ○○member

18

Sponsors / 支援者

説明：青年会議所以外のメンバーがいる場合のみ記載してください

例：○○市ボランティア団体等

講師 佐々木芽生さん

- ・ ニューヨークで活動する日本人。
- ・ ドキュメンタリー映画監督。
- ・ 情報を効果的に発信する為には、現場に赴いた上での情報収集を大切にしている。
- ・ クラウドファンディングにより多くの支援者を募ることに成功。
- ・ (一社) 横浜青年会議所の運動に共感してくれた。
- ・ 彼女の口から出る言葉を直接聞くことが、私たちの成長に繋がる。
- ・ 彼女が制作した映画という媒体を通して、現実を世界に発信する事が何よりも効果的だと私たちは判断した。

Budget 予算

説明：ドルで表示してください。

例：1万円なら one hundred dollar

4700ドル

Profit / Loss 利益/損失

説明：基金を集めること以外は、0にしてください

0

In Which UN MDG best fit (if Apply)? UN MDGs の該当項目 (もしあれば)

説明 :

特になし

Who is benefited? 誰の為に?

説明 : 活動エリアに住み暮らす人々 人

(一社) 横浜青年会議所正会員、特別会員、見学者、来訪 J C

Objective 目的

説明 : (例 1) 子ども対象の事業をベースにして、参加者とメンバーの意識を変革を促し、前向きな変化を創り出すため

【情報処理能力を上げる事 MEDIA LITERACY】

1つの情報は見方を変えると異なって見える。それは、判断が早すぎるから。私たちの J C 運動が市民に伝わりづらい原因は運動に効果があると判断してしまうから。地域の課題はメディアの伝え方と地域では違う場合が多い。その情報の捉える能力を向上させる事が、効果のある J C の運動になる

1) J C メンバーのレベル

情報を多角的に捉え、視野の範囲を広げる事。情報の「視点」と「観点」の相違性を理解し、行動につなげるリーダー意識を高めること。

2) チームのレベル

情報発信の大切さを理解し、運動発信への意識を高めること。

3) 地域のレベル

時に、メディアが発する情報に迷惑をする地域がある。それを解決する方法はないかと相談がありました。そこで私たちは、情報処理を2つの道を作り「視点」と「観点」の違いを映画にする監督と組み、世界へ発信する事が大切だと考えた。2つの道はどちらも正解である。しかしメディアリテラシーを高める事で、相互の理解に繋がる互いを思いやる心が世界平和になる

4) 全体

運動を的確に伝える事は、情報の処理能力を高める事から始める必要があります。今回は地域の実際にある事例を取り上げ、映画監督と組み情報の大切さをメンバーが学びJC運動の質を高めます。そして地域の課題であるメディアの一方の発信ではなく、「物事の角度を変えた見方をしよう」と映画というメディア媒体で発信する事にしました。

Overview 概要

説明：必ず結果と合致しているはず

個人の情報処理能力を上げることは、地域を豊かにすると私たちは考えます。このプログラムはメディアリテラシーの能力を高める為に行うプログラムです。3月に全メンバーが集まる例会を、その機会にすることになりました。「情報の視点と観点」というテーマで、ドキュメンタリー映画監督を講師に招き、講演をして頂きました。題材は現実に日本で起きている問題です。その問題とは、昔から海と共存している和歌山県太地町で起きています。この地域はイルカ漁をして、イルカを食べる文化を持っています。その行動が反捕鯨団体を中心とした海外メディアの批判を浴び、イルカ漁への抗議活動が毎日行われています。その現実を両方の視点から考えることで、はじめて自分の考えが作られます。偏ったメディアのひとつの情報だけで物事を判断する事は危険です。その事実を完全に理解し、映画という媒体を通して発信している佐々木氏に講演して頂きました。それを聞いて、メンバーの情報を捉える能力を向上させます。

Result 結果

説明：複数の短い文章になるように注意してください

目的がどのくらい達成できたか書いてください

上記の結果の想定外の結果を書いてください

上記の結果の確認方法を書いてください

検証結果を簡潔に書いてください

このプログラムには309名のメンバーのうち90.9%にあたる280名のメンバーに登録して頂きました。

登録した280名のうち53.9%にあたる151名のメンバーに講演を聞いて頂きました。

講演を聞いた151名のうち96.6%にあたる146名のメンバーにアンケートの回収を致しました。

【アンケート結果】

- ① 86.8%のメンバーが情報の捉え方を理解して頂くことが出来ました。
- ② 89.7%のメンバーが情報発信において情報の捉え方がポイントだと理解して頂くことが出来ました。
- ③ 39.9%のメンバーがPR動画が参加推進方法で効果的だったと感じていただきました。
- ④ 今後の運動発信に対し、90.2%の参加メンバーの役に立つ事が出来ました。
- ⑤

Actions Taken 行動

説明：

2015年9月

2016年3月に行う【創発×発信】をテーマにした例会を行う事が決定。情報の「視点」と「観点」の相違性を知り、メンバーの情報発信能力を発展させることができる機会を提供する為の題材を考えました。

当時日本のメディアでは和歌山県太地町のイルカを食べる文化を反捕鯨活動団体が猛抗議しているニュースがながれていました。

この一つの現実を例会の題材にする事を決定しました。

2015年10月

ニューヨークで活躍している日本人のドキュメンタリー映画監督である佐々木芽生さんに講演を依頼する。今後公開予定のイルカ漁文化と反捕鯨活動団体とのドキュメンタリー映画製作に向けた協同事業として、依頼を快諾して頂く。

2015年11月

担当するメンバー5名で現地調査と現地人との関係構築の為に和歌山県太地町

へ行きました。現地で実際に行われているイルカ漁と抗議活動を目の当たりにしました。イルカを食べる文化の中で育った現地人に話を聞き、実際にイルカを食べました。1回では全て理解する事ができなかったなので、もう一度行くことを決めました。

2016年1月

担当するメンバー5名で和歌山県太地町へもう一度行きました。前回よりも詳細な現地調査ができました。抗議活動をしている反捕鯨活動団体の方々にも話を聞けました。3月に行われる例会で使用するプロモーション動画の素材集めを行いました。

2016年2月

プロモーション動画の作成。横浜JCメンバーへの告知。

2016年3月11日

例会開催。

例会登録者280名（310名のメンバーのうち90.9%）

着座人数151名

- プロモーション動画を放映
- 講師佐々木芽生さんによる講演
- 殿内理事長と佐々木講師のトークセッション

手法	登場人物	題 目	考える点	伝えるポイント
映像を放映	なし	情報の捉え方	情報の独自の視点	想像性
講師講演	佐々木氏	情報発信とは 視点と観点の相違性	捉える、行動する、 情報発信の影響 とは？	ストーリー性
トークセ	佐々木氏	情報発信の大切	私たちは情報をど	共感

セッション	殿内理事 長	さ伝えるべき本 質・存在意義・ 共感	う捉え、発信してい るか。運動発信の影 響力や共感とは何 か？	ムーブメ ント 創発
-------	-----------	--------------------------	--	------------------

例会後→アンケートを配布しました。（146名/151名）

2016年5月

アンケート集計後、すべての決算事項を終え、このプログラムを終了しました。

Recommendations 考察や推奨

目的のうちどの部分が達成されたのか？

達成できなかった部分は、何か？

それは、なぜか？その改善策は？

このプログラムは、参加した多くのメンバーの情報を多面的に捉える能力の必要性を実感して頂きました。

【達成した点】

・講師のドキュメンタリー映画監督の立場から、情報は一方的に受信するのではなく、自ら動き観点で捉える事が大切である事を学びました。そして相手の共感を得て行動する事が、情報発信に必要な事を理解して頂きました。

このプログラムにより、メンバーが今後のJC活動をより積極的に行動する意識を高めて頂く事が出来ました。

【達成しなかった点】

・メンバーの90.9%がプログラムに登録しましたが、実際に講演の聞いたのは全メンバーの48.8%でした。事前の魅力的な広報が足りなかったのが原因であると考えます。

ページ 3

Objectives, Planning, Finance and Execution

目的、計画、財務、実施

What were the objectives of this program?

このプログラムの目的は？ ※200語まで

【情報処理能力を上げる事 MEDIA LITERACY】

運動を的確に伝える事は、情報の処理能力を高める事から始める必要があります。市民が求めるJC運動を行う為には、的確な情報を捉える事が必要。その情報の捉える能力を向上させる事が効果のあるJCの運動になる

1) JCメンバーのレベル

情報を多角的に捉え、視野の範囲を広げる事。情報の「視点」と「観点」の相違性を理解し、行動につなげるリーダー意識を高めること。

2) チームのレベル

情報発信の大切さを理解し、運動発信への意識を高めること。

3) 地域のレベル

「視点」と「観点」の違いを映画にする監督と組み、世界へ発信する事が大切だと考えた。メディアリテラシーを高める事で、相互の理解に繋がる互いを思いやる心が世界平和になる

How does this program align to the JCI Plan of Action?

この事業は、どのようにJCIの活動計画と合っていますか？ ※200語まで

一つの物事を多面的に捉える事を理解する事は、今後の人生をより豊かにし、物事の判断を正しい方向に導く重要な要素となります。このプログラムは、より良い変化をもたらす力を青年に与えるための発展・成長の機会の提供に成功しました。

Was the budget an effective guide for the financial management of the project?

予算は事業の財務管理の為の効果的なガイドになりましたか？※150語まで

このプログラムの総予算は4700ドルです。実際に参加したメンバーの人数は280名です。単純に一人当たりで換算すると16.7ドルであり、2時間の講演を聞くと考えたとき、とても効果的であると考えます。

How does this project advance the JCI Mission and Vision?

どうやってこの事業はJCIのミッションとヴィジョンを推進しましたか？

※200語まで

情報の「視点」と「観点」の相違性を理解する事で、今後得る情報を自分自身が正しく判断できる能力を育成することができました。

JCI VISIONに書かれている若き能動的市民には、自らの判断により情報を観点で捉える能力が必要であり、このプログラムはPOSITIVE CHANGEを青年に与える発展・成長の機会となりました。

※画像4つ必要

ページ4

Membership Participation 会員の参加

By number, how many members were involved in this program?

事業のスタッフは何人？ ※2語まで

18

By percentage, how many members of the Local Organization were involved in this program?

LOMメンバーの参加率は？ ※1語まで

90.9%

Describe the main roles of the participating members in this program.
このプログラムで参加しているメンバーの主要な役割を簡潔に記述してください ※300語まで

- ① 講師を選択し、講演依頼をする。
→講師にJ C運動を理解してもらう事が必要。ドキュメンタリー映画製作の協力を依頼される。
- ② 現地調査
→和歌山県太地町に2回現地調査に行く。実際にイルカ漁を見て、イルカを食べた。反捕鯨団体と話す機会を作った。プロモーション動画の撮影を行った。
- ③ プロモーション活動
→プロモーション動画の作成。メンバーへの告知（HP・FB・SNSなど）
- ④ 例会準備
→会場の設営。

※画像4つ必要

ページ5

Skills Developed 習得された技術・能力

What skills were developed in this program?

どんな技術・能力が、このプログラムで習得されましたか？ ※150語まで

【MEDIA LITERACY】

- ① 自らの判断により情報を観点で捉える能力が身についた。
- ② 情報発信の大切さを理解し、今後の運動発信への意識が高まった。
- ③ 情報の「視点」と「観点」の相違性を理解し、行動につなげるリーダー意識が高まった。

How were these skills developed? Describe the methods and activities used

これらの技術・能力はどのように習得されましたか？用いられた手法と活動を記述してください ※300語まで・2015年から変更

① 映像を放映〈情報の捉え方・独自の視点〉

和歌山県太地町で実際に行われているイルカ漁の現実を伝えます。内容は「残酷」「乱獲を防ぐ」という反捕鯨団体の活動を描写した「独自の視点」から捉えたものです。その映像を見て様々な感情を抱く機会を提供しました。その後の講師講演を聞く前に、自分の果たすべき役割をイメージさせる事が目的です。

② 講師講演〈情報の発信・視点と観点の相違性〉

佐々木芽生講師には、「情報の視点と観点の相違性」と「情報発信の重要性」を参加者に分かりやすく講演して頂きました。一つの情報を発信する際の影響力を理解してもらい機会となりました。

③ トークセッション〈情報発信の大切さ・伝えるべき本質・共感〉

殿内理事長から佐々木氏に質問形式の対談を行いました。共感を得る事のできる情報発信をする事の必要性を知る事が出来ました。それがリーダーには必要であり、参加者の意識を高める機会となりました。

※画像4つ必要

ページ6

Impact on Participants 参加者への影響

What was the intended impact on the participants?

参加者への意図された影響は、何でしたか？ ※150語まで

情報を捉える判断は、日常生活で当たり前のように行っております。当たり前に行っていることを意図的に考え直す為には、少しショッキングな題材を準備し、参加者に興味を持ってもらう事が必要です。そこで、「イルカを食べる文化」と「動物愛護」の事例にスポットを当てました。日本全体でもニュースに取り上げられる話題なので、参加者に興味を持って頂く事ができました。

Describe the actual impact on the participants.

参加者への実際の影響を記述してください。 ※300語まで

実際に和歌山県太地町へメンバーで赴き、イルカを食べるという古くからの食文化を守り抜く現地人と、その行動を「動物愛護の視点」から否定する海外メディアの方々の話を直接聞くことにより、一つの物事を多角的に捉える必要性を実感することができました。また、その感覚を多くの横浜JCメンバーと共有できました。イルカを食べる事が良い事なのか、悪い事なのか、正解はありません。しかしながら、この例と同じ様な問題が今後の人生で起きた際には、このプログラムの経験を活かし、自分自身の意見を持った正しい判断ができるでしょう。

※画像4つ必要

ページ7

Long-term Impact of the Program プログラムの長期的な影響

What is the expected long-term impact of this project?

このプロジェクトの期待される長期の影響は、何ですか？ ※200語まで

人生の中で、自らの意見を持ち判断する機会は数えきれないほどあります。その判断は沢山の情報を取り入れ、様々な角度から考え、導き出されるべきです。このプログラムは、その基本的な考え方を学ぶ絶好の機会でした。このプログラムで学んだことはJC活動以外の人生においても、活用されると思います。

What changes would you make to improve the results of this project?

このプロジェクトの結果を改善するために、どんな改善策がありますか？

※300語まで

アンケート結果から、13.2%のメンバーに情報の捉え方を理解して頂く事が出来ませんでした。今回は「イルカを食べる文化」を例に「視点」と「観点」の相違性を伝えましたが、次に情報の捉え方を学ぶ機会には、違う題材を準備し、より分かりやすく伝わりやすい例を準備致します。

※画像4つ必要